

The Twelve Traditions of NA NAの12の伝統

伝統1

第一にすべきは全体の福利である。個人の回復はNAの一体性にかかっている。

NAの第一の伝統は一体性と全体の福利に焦点を当てている。私たちの新しい生き方でいちばん大切なのは、回復を求めるアディクトたちで構成されたグループの一員になることだ。私たちが生き残ることができるかどうかは、グループの存続、NAの存続に直接関係している。NAのなかで一体性が保たれるためには、グループがつねに安定していなければならない。そうでなかったら、NA全体が消滅し、一人のメンバーも命を落とすことになる。

私たちのグループの目的のための最終的権威はただ一つ、グループの良心の中にあられる愛なる神である。私たちのリーダーは奉仕を任された僕にすぎず、彼らは決して支配しない。

私たちがサービスを行う場合、それが個人としてか、グループとしてか、あるいはコミティやサービスボードとしてかはともかく、そのサービスの方向付けは自分で理解している神によって示される。私たちが一体となって協力するときはいつでもこの愛なるハイヤーパワーの存在を頼り、その導きを求めている。すると私たちのあらゆる行動のなかに方向性が示されるのだ。《略》何らかの能力を発揮して、私たちのためにサービスをしてくれるメンバーを選出するときには、お互いに対する信頼感を動かせる。

メンバーであるために要求される唯一のことは、使うことをやめたという願望だけである。

伝統3は、判断など決してしないよう呼びかけている。また伝統3は、人の助けになり、受け入れ、無条件に愛そうとする心構えにつながるサービスの道へと私たちを導いている。《略》アディクションはしに至る病気だ。回復を知らないアディクトが行き着く先は、刑務所施設、あるいは死しかない。たとえ単なる好奇心でやってきたアディクトであっても、そのアディクトにミーティングの参加を断ったら、死刑宣告をしたのも同じなのだ。

各グループは自律的でなければならない。ただし、他のグループまたはNA全体に影響をおよぼす事柄においてはこの限りではない。

どのグループにも完全な自由がある。ただし、その行動が他のグループやNA全体に影響を及ぼさない限りという条件がついている。私たちの行動を確認した結果、それが伝統の枠組みからはずれていないことが確実であるなら、そして、他のグループに対して命令したり強制したりしていないなら、また、行動を起こした結果について事前によく検討しているのなら、何もかもうまくいくはずだ。

各グループの第一の目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶことである。

私たちのメッセージとは何だろう。それは、アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのを止めることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見出すことができるというメッセージだ。私たちのメッセージは希望であり、そして自由を約束するものだ。結局、私たちの第一の目的はまだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶこと以外ありえない。私たちに与えることができるのはそれだけなのだ。

NAグループはいかなる関係ある施設にも、外部の組織に対しても、支持や融資をしたり、NAの名前を貸したりしてはならない。金銭や所有権や名声の問題が、私たちが第一の目的からそれさせるおそれがあるからである。

伝統6が設けている限度の範囲内であっても、回復のメッセージを運び、アディクトの手助けをするための自由は計り知れないほど大きいものだ。ナルコティクス アノニマスという独自性（アイデンティティ）によって定められた明確な境界線があるからだ。その境界線を犯すことのないように心を配れば、外部との関係により、まだ苦しんでいるアディクトへメッセージを運ぶ私たちの力がさらに強化されこそすれ、第一の目的からはずれることにはならないのだ。

伝統2

伝統3

伝統4

伝統5

伝統6

伝統7

すべてのNAグループは、外部からの寄付を辞退して、完全に自立しなければならない。

伝統7がグループに対して、自分たちの経費は自分たちでまかなうようにと伝えることで、グループは、自分たちにふさわしい方法で回復を分かち合う自由を確保する。外部の出資者のいうことを聞く義務はない。さらに、グループに対して、スピリチュアルな原理をイアキしてこそ生まれる内面的な強さを得る自由も与えている。

ナルコティクス アノニマスはどこまでも非職業的でなければならない。しかし、サービスセンターのようなところでは先住の職員を置くことができる。

伝統8

この伝統が行っているのは、NAのなかに専門職の人たちをおかないということだ。つまり、NAの職員として精神科医や医師、弁護士、カウンセラーはいない。私たちのプログラムは、一人のアディクトがもう一人のアディクトの手助けをしていくことで効力を発揮する。NAグループのなかに専門職を置くようになったら、私たちの一体性はめちゃくちゃになるだろう。私たちはみな、対等の立場で互いに惜しみなく手助けをしている、ただのアディクトだ。

NAそのものは決して組織化されてはならない。しかし、サービスの機関またはコミティを作ることができる。これらの機関は、グループやメンバーの付託に直接応えるものである。

伝統9

NAのグループが協力し合い、各グループが持つ資源を集めてサービスボードやコミティを作るのであれば、第一の目的をさらに効率よく達成することができる。ボードやコミティが会合を開くのは、ナルコティクス アノニマスを支配するためではなく、グループからの信頼を忠実に実行に移すためである。

ナルコティクス アノニマスは外部の問題には意見を持たない。したがって、NAの名は公の論争で引き合いに出されるべきではない。

伝統10

社会には多数のアディクション関連の問題があり、回復を進めるアディクトたちの国際的な集まりも、立場をはっきりさせたほうがいいという世の中の期待がある。《略》伝統10にそって答えるなら、NAグループもNAそのものも、NAプログラム以外のことについてはいかなる問題に対しても賛成も反対もせず、どのような見解も示さない、ということだ。《略》私たちは、存続するために外部の問題に意見を持たないのだ。

私たちの広報活動は宣伝により促進することよりも、ひきつける魅力に基づく。活字、電波、映像の分野で、私たちはいつも個人名を伏せる必要がある。

広報活動には「方針」がある。そのことは、NAの第一の目的を果たすうえで、広報関係の「プログラム」がどれほど大切かを示している。《略》NAグループ、サービスボード、コミティとして、私たちが慎重に、そして精力的に、一般の人たちとの良好な関係を深めようとしているのは、アディクトにNAのメッセージをもっと効率的に運ぶためである。それは、NAの通常の活動を行なっていれば自然と深まるというものではない。《略》公の場ではメンバーが無名になることで、それに参加しているメンバーではなく、NAのメッセージに的を絞った広報活動を行うことができる。

伝統11

無名であることは、私たちの伝統全体のスピリチュアルな基礎である。それは、各個人よりもNAの原理が優先すべきことを、いつも、私たちに思い起こさせるものである。

伝統12

無名であるということは私たちの回復の基本要素であり、それは私たちの伝統とNAという集まりの中に深く浸透している。またそれは私たちが自分のたちの性格上の欠点から守ってくれ、個人の性格どと一人ひとりの違いだとかを払拭してくれる。無名であることを実際に行動で示すとき、原理よりも個人を優先させることなど不可能になるのだ。

Twelve Concepts for NA Service NA の 12 の概念

概念 1

NA の第一の目的を実現するため、NA 全体のためにサービスを展開、調整、維持するサービス機構を、NA グループが一一致協力しここに設立した。

NA グループの第一の目的とは、回復のためのミーティングを聞いて、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを直接運ぶことである。だがそれ以外のサービスたとえば、H&I、PI、出版物の発行なども効果的に実行され、いっぽうグループは第一の目的に徹しているられるよう、各グループは力を合わせてサービス機構を支えている。

概念 2

NA サービスを行なう最終的な責任と権限は NA グループにある。

グループが協力して設立したサービス機構に対する最終責任と権限はグループにある。グループは、グループの良心や見解、人員、必要な金銭などをサービス機構に提供してその責任を果たし、その権限をも行使している。逆に言えば、サービス機構はグループに支援と支持を常に求めなければならない。

概念 3

NA グループは、課せられた責任をサービス機構が果たすために必要な権限をその機構にゆだねている。

日常的なことからについては、サービスボードやコミティがゆだねられた業務を行うために必要な具体的な権限が、グループから与えられている。ただしサービス機構に与えられた権限は無制限ではない。最終的な責任は依然としてグループにある。概念 3 を有効に生かすためには、任されたしもべの選出を慎重に行わなければならない。

概念 4

ナルコティクス アノニマスでは、すぐれたリーダーシップが高く評価される。任されたしもべを選出する際には、リーダーシップの資質があるかどうかを慎重に考慮するべきである。

リーダーシップは NA という集まりの繁栄のためにはきわめて重要である。この概念が述べているのは、任されたしもべを選出するときには、リーダーシップについての数々の資質があるかどうかを考慮するべきだということである。

概念 5

サービス機構に託されたおのおのの責任については、決定権をどこに置くのか、果たすべき義務は何かを明確にしておかなければならない。

私たちのメッセージとは何だろう。それは、アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのを止めることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見出すことができるというメッセージだ。私たちのメッセージは希望であり、そして自由を約束するものだ。結局、私たちの第一の目的はまだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶこと以外ありえない。私たちに与えることができるのはそれだけなのだ。

概念 6

グループの良心とは、愛なる神のはたらきが私たちの決定に示されるよう心を開くスピリチュアルな手段である。

グループの良心は、12 のステップによって経験したスピリチュアルな目覚めを、サービスに関する決定に生かしていく手段である。また、NA という集まりが意思決定をする際には欠かせないものである。ただし「選挙」の遠回しな言い方に用いられているものの、グループの良心そのものが、NA の意思決定過程になるわけではない。

概念 7

サービス機関に属するメンバーは全員が、その期間の決定に多大な責任を負っているため、その意思決定過程には全員が全面的に参加できなければならない。

ひとつのサービス機関に属するメンバーは全員がその機関の決定に多大な責任をもつ。したがって、その意思決定過程には全員が完全に参加できなければならない。NA のサービスは、チームとして協力して行う取り組みである。全員の良心をあらわすには、そのチームのメンバー全員が全面的に参加することが何よりも重要である。

概念 8

NA のサービス機構は、私たちがどれほど誠実かつ効率的に意思疎通をはかるかにかかっている。

意思疎通を常にはかることが、あらゆる概念を実現するために、そして NA のサービスを誠実に効率的に行うためには欠かせないことである。

概念 9

NA のサービス機構を構成する期間はすべて、意思決定を行うにあたっては、あらゆる観点から慎重に検討を行う責任がある。

出された判断をチェックし、軽はずみな決定や誤解のあるままの決定を避け、さらに、新しい意見をどんどん出してもらうためにも、サービス機関が計画を立てる際にはあらゆる観点から検討を行わなければならない。正当で、賢明で、バランスの取れたグループの良心を掘り起こすには、このところが欠かせない。

概念 10

サービス機関に属するメンバーはだれもが、もし不当な扱いを受けた場合にはそれを正すよう、報復を恐れることなく、その機関に申し立てることができる。

概念 10 は、サービスを行う中ではお互いを尊重するよう働きかけしており、さらに、ほかの人を不当に扱った時の埋め合わせの手段も示している。また、不当な扱いを受けたように思ったとき、その扱いに対する救済を求める方法も述べている。

概念 11

NA の資金は、NA の第一の目的の更なる実現を果たすために使用されるものであり、責任をもって管理されなければならない。

概念 11 は NA 資金の、絶対的に優先すべき唯一の使い道を定めている。それはメッセージを運ぶことである。この優先順位は重大である。基金の使途に説明責任が全面的に求められる。私たちは各サービス機関に直接献金することで、第一の目的だけに目を向けて、責任を果たしている。

概念 12

ナルコティクス アノニマスのスピリチュアルな本質を踏まえ、NA の機構はつねに奉仕の精神をもち、支配的になってはならない。

12 の概念全体の枠のなかでもこの概念は、伝統全体のなかの伝統 12 とほぼ同じ役目を果たしている。つまり、NA サービスという考え方は、無私無欲のサービスというスピリチュアルな本質を土台にしていることを思い出させるものである。「このことを土台として築かれた機構は、サービスをするためだけにあるもので、決して支配はしない。」